

発行日：2019年04月01日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名称：スクイズパテ#30 A

製品番号(SDS NO)：10510-1

供給者情報詳細

供給者：ダイヤリフォーム株式会社

住所：〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-26

電話番号：03-3526-6988

FAX：03-3526-6987

2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類、ラベル要素

GHS分類

健康に対する有害性

皮膚腐食性及び刺激性：区分 2

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：区分 2

皮膚感作性：区分 1

発がん性：区分 2

特定標的臓器毒性(反復暴露)：区分 2

環境有害性

水生環境有害性(急性)：区分 1

水生環境有害性(長期間)：区分 1

GHSラベル要素



注意喚起語：警告

危険有害性情報

皮膚刺激

眼への刺激

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

予防

使用前に取扱い説明書を入手する。

取扱う前にすべての安全注意を読み理解する。

容器を密閉する。

粉じん/ヒューム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入してはならない。

粉じん/ヒューム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避ける。

取扱い後は汚染箇所をよく洗う。

汚染された作業衣を作業場から出してはならない。

(適切な処置を講じたとき以外は)環境への放出を避ける。

保護手袋を着用する。

保護眼鏡/保護面を着用する。

対応

気分が悪い時は、医師に連絡する。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯する。

漏出物を回収する。

皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗う。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗う。コンタクトレンズを着用し容易に外せる場合は外し洗浄を続ける。

皮膚刺激または発疹が生じた場合：医師の診断/手当てを受ける。

眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受ける。

保管

国/地方の規則に従って保管する。

廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄する。

分類の名称(分類基準は日本方式)

その他の有害性物質

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区分 :混合物質

成分名	含有量(%)	CAS No.	化管法政令番号
ビスフェノールAエポキシ樹脂	40 - 50	25068-38-6	-
酸化チタン(IV)	1 - 5	13463-67-7	-

注記：これらの値は、製品規格値ではありません。

危険有害成分

労働安全衛生法「通知すべき有害物」に該当する成分

酸化チタン(IV)

4. 応急措置

一般的な措置

気分が悪い時は、医師に連絡する。

吸引した場合

呼吸が困難な場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい体制で休息させる。

気分が悪い時は、医師に連絡する。

皮膚に付着した場合

付着物を洗浄し乾いた布で素早く拭き取る。

汚染した衣類を再使用する場合は洗濯する。汚染した靴は捨てる。再使用する場合は汚物を完全に除去する。

多量の水と石鹼で洗う。

直ちに医師に連絡する。

皮膚刺激または発疹が生じた場合：医師の診断/手当てを受ける。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗う。コンタクトレンズを着用の場合は容易であれば外して洗浄する。

眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受ける。

応急処置をする者の保護

適切な換気を確保する。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

泡、粉末、炭酸ガス、乾燥砂を使用する。

不適切な消火剤

水は冷却の目的には用いてもよいが、消火の効果はない。

特有の危険有害性

不完全燃焼すると濃い煙が発生する。

消火水や希釈水が汚染を引き起こすおそれがある。

特有の消火方法

- 関係者以外は安全な場所に退去させる。
- 危険を避けられれば燃焼源の供給を止める。
- 消火水の下水への流入を防ぐ。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- 回収が終わるまで十分な換気を行う。
- 適切な保護具を着用する。
- こぼれた場所はすべりやすいため注意する。
- 安全に対処できる場合は漏洩を止める。

環境に対する注意事項

- 漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。
- 下水、排水中に流してはならない。

回収、中和、ならびに 封じ込めおよび浄化の方法/機材

- 不活性の物質(乾燥砂、土など)に吸収させて、容器に回収する。
- 掃き集めて、容器に回収する。
- 回収物はラベルを貼って密閉容器に保管する。

二次災害の防止策

- 漏出物を回収する。
- 排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者の暴露防止)

- 粉じん/ヒューム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入してはならない。
- 粉じん/ヒューム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避ける。

(火災・爆発の防止)

- 熱源/火花/炎/加熱面から遠ざける。—禁煙。

注意事項

- 皮膚に触れないようにする。
- 眼に入らないようにする。
- 蒸気は、めまいや窒息を引き起こすおそれがある。
- 吸入や接触により皮膚や眼に刺激や炎症を起こすおそれがある。

安全取扱注意事項

- 使用前に取扱い説明書を入手する。
- 取扱う前にすべての安全注意を読み理解する。
- 保護手袋を着用する。
- 保護眼鏡/顔面保護具を着用する。
- 取扱い後は手、汚染箇所をよく洗う。
- 取扱中は飲食、喫煙してはならない。

配合禁忌等、安全な保管条件

適切な保管条件

- 容器を密閉する。
- 涼しい所に置く。日光を避ける。
- 国/地方の規則に従って保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

職業暴露限界値、生物学的限界値の管理指標

許容濃度

- (酸化チタン(IV))

日本産衛学会(2013) 0.3mg-ナノ粒子/m³
 (酸化チタン(IV))
 ACGIH(1992) TWA: 10mg/m³ (下気道刺激)

設備対策

適切な換気のある場所で取扱う。
 洗眼設備を設ける。
 手洗い/洗顔設備を設ける。

保護具

皮膚及び身体の保護具
 顔面保護具を着用する。
 保護衣を着用する。

衛生対策

取扱い後は汚染箇所をよく洗う。
 汚染された作業衣は作業場から出してはならない。
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をする。
 取扱い後はよく手を洗う。
 休息、終業時は手を洗う。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

形状：揺変状
 色：白色
 臭い：微臭
 引火点：>190°C
 比重/密度: 1.4g/cm³
 水に対する溶解度：不溶

10. 安定性及び反応性

安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

混触危険物質

酸、強酸、塩基、強塩基、酸化性物質、強酸化性物質、還元性物質、強還元性物質

11. 有害性情報

物理的、化学的及び毒性学的特性に関する情報

急性毒性

急性毒性(経口)

[日本公表根拠データ]
 (酸化チタン(IV))
 rat LD50 >5000mg/kg (SIDS, 2015)

急性毒性(経皮)

[日本公表根拠データ]
 (酸化チタン(IV))
 hamster LD50>10000mg/kg (HSDB, Access on May 2016)

急性毒性(吸入)

[日本公表根拠データ]
 (酸化チタン(IV))
 dust: rat LC50 >5.09mg/L (SIDS, 2015)

労働基準法：疾病化学物質

ビスフェノールAエポキシ樹脂

局所効果

皮膚腐食性・刺激性

- [日本公表根拠データ]
 (ビスフェノールAエポキシ樹脂)
 ラビット 刺激性 (CERI/ハザードデータ集 2001-36, 2002 et al)
- 眼に対する重篤な損傷・刺激性
 [日本公表根拠データ]
 (ビスフェノールAエポキシ樹脂)
 ラビット 軽度の刺激性 (CERI/ハザードデータ集 2001-36, 2002)
- 感作性
 感作性[厚労省局長通達]
 ビスフェノールAエポキシ樹脂
- 皮膚感作性
 [日本公表根拠データ]
 (ビスフェノールAエポキシ樹脂)
 cat. 1; DFGOTvol.19, 2003
- 生殖細胞変異原性
 変異原性が認められた化学物質 [厚労省局長通達]
 (ビスフェノールAエポキシ樹脂)
- 発がん性
 [日本公表根拠データ]
 (酸化チタン(IV))
 cat.2; IARC Gr. 2B (IARC 93, 2010 et al.)
 (酸化チタン(IV))
 IARC-Gr.2B : ヒトに対して発がん性があるかもしれない
 (酸化チタン(IV))
 ACGIH-A4(1992) : ヒト発がん性因子として分類できない
 (酸化チタン(IV))
 日本産衛学会-2B: 人におそらく発がん性があると判断できる証拠が比較的十分でない物質
- 短期暴露による即時影響、長期暴露による遅延/慢性影響
- 特定標的臓器毒性
 特定標的臓器毒性(反復暴露)
 [区分1]
 [日本公表根拠データ]
 (酸化チタン(IV))
 呼吸器 (SIDS, 2015)

12. 環境影響情報

環境有害性

水生毒性

水生生物に非常に強い毒性

長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

水生毒性(急性) 成分データ

[日本公表根拠データ]

(酸化チタン(IV))

甲殻類 (オオミジンコ) EL50 > 100mg/L/48hr (SIDS, 2015)

(ビスフェノールAエポキシ樹脂)

甲殻類 (オオミジンコ) EC50=1.7mg/L/48hr (CERI/NITE, 2006)

水溶解度

(酸化チタン(IV))

溶けない (HSDB, 2004)

(ビスフェノールAエポキシ樹脂)

0.0000041 g/100 ml (CERI・NITE有害性評価書(暫定版), 2006)

残留性・分解性

(ビスフェノールAエポキシ樹脂)

BODによる分解度:0% (既存化学物質安全点検データ)

生体蓄積性

(ビスフェノールAエポキシ樹脂)

BCF ≤ 42 (Check & Review, Japan)

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

(適切な処置を講じたとき以外は)環境への放出を避ける。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄する。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

番号 : 3082

品名(国連輸送名) :

環境有害物質、液体、N.O.S.

国連分類(輸送における危険有害性クラス) : 9

容器等級 : III

指針番号 : 171

海洋汚染防止法

有害液体物質(X類):ビスフェノールAエポキシ樹脂

有害液体物質(Z類):ビスフェノールAエポキシ樹脂

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

労働安全衛生法

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

酸化チタン(IV)

名称通知危険/有害物

酸化チタン(IV)

労働基準法 疾病化学物質:

ビスフェノールAエポキシ樹脂

通達 感作性物質(基発第182号):

ビスフェノールAエポキシ樹脂

通達 変異原性(既存化学物質):

ビスフェノールAエポキシ樹脂

消防法に該当しない。

化審法

優先評価化学物質

ビスフェノールAエポキシ樹脂

船舶安全法

有害性物質 分類9

航空法

その他の有害物件 分類9

環境有害性

MARPOL条約附属書V 海洋環境に有害な物質

水生環境有害性: 急性区分1 該当物質

ビスフェノールAエポキシ樹脂

水生環境有害性: 長期間区分1, 2 該当物質

ビスフェノールAエポキシ樹脂

バルク輸送におけるMARPOL条約附属書II 改訂有害液体物質及びIBCコード

有害液体物質(X類)

ビスフェノールAエポキシ樹脂

有害液体物質(Z類)

酸化チタン(IV)

適用法規情報

この物質に関する貴国又は地方の規制については、貴社の責任でご調査願います。

16. その他の情報

GHS分類区分

皮膚腐食性/刺激性 区分 2:H315 皮膚刺激

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分 2:H319 強い眼刺激

皮膚感受性 区分 1:H317 アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ

発がん性 区分 2:H351 発がんのおそれの疑い

特定標的臓器毒性(反復暴露) 区分 2:H373 長期又は反復暴露により臓器の障害のおそれ

水生毒性-急性 区分 1:H400 水生生物に非常に強い毒性

水生毒性-慢性 区分 1:H410 長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (5th ed., 2013), UN

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 19th edit., 2015 UN

Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (table3-1 ECNO6182012)

2016 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)

2018 TLVs and BEIs. (ACGIH)

<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>

Supplier's data/information

責任の限定について

この情報はこの特定の材料に関するものであり、この材料が他の材料と組み合わせられたり、処理されたときは無効です。この情報を自分自身の独特な取扱いに適合させ完全で満足できるものとする責任はユーザーにあります。

この情報は、私どもの知識の及ぶ限りにおいて正確ですが、当社は内容の正確性又は完全性について、何も責任を取ることはできません。全ての材料を適当に使用する最終的決定の責任はユーザーのみのものです。全ての材料には、未知の危険性があり、取扱いに注意が必要です。ここには特定の危険性について記載してありますが、これ以外の危険性が存在しないことは保証できません。